

人と防災未来センター災害対策専門研修について（中間報告）

平成 14 年 9 月 30 日（月）からスタートした「災害対策専門研修マネジメントコース A,B」の第 1 期が終了したため、下記のとおり実施結果等を取りまとめた。

1. コース別参加者数

マネジ メント コースA (上級コース)	第 1 期	1 ユニット	平成 14 年 10 月 22 日（火）～ 10 月 25 日（金）	18 人
		2 ユニット	平成 14 年 10 月 28 日（月）～ 10 月 31 日（木）	10 人
マネジ メント コースB (基礎コース)	第 1 期	1 ユニット	平成 14 年 9 月 30 日（月）～ 10 月 4 日（金）	20 人
		2 ユニット	平成 14 年 10 月 7 日（月）～ 10 月 11 日（金）	17 人
		3 ユニット	平成 14 年 10 月 15 日（火）～ 10 月 18 日（金）	18 人
計（のべ）				83 人

各ユニットの定員は 20 名。コース概要は参考のとおり。

2. 評価と課題

研修生の評価等をふまえ、研修の状況を取りまとめると以下のとおりである。

講義内容・カリキュラムについては概ね高い評価

- ・座学の講義については、概ね研修生の知識欲を満足させるに足る内容であった。また、討論会や災害対応演習は、全国から集まった研修生間で意見交換が可能であることもあり、概ねよい評価を得た。
- ・Aコースは2週間、Bコースは3週間で全体構成を考えているため、全てを受講した研修生には高い評価を得た。一方、各コースの受講生の半数程度を占める1週間単位の受講者にとっては、座学と演習等のバランスに偏りがある等の指摘があり、カリキュラム編成・受講形態における今後の検討課題といえる。
- ・一部講義において、内容の重複及び事前告知と実際の内容に相違が見られた。センターとして希望する講義内容を講師によりの確に伝えるための努力が必要。
- ・政府関係者の講義については、特に各制度の背景、今後の施策展開の方向性等、通常通達などでは十分把握できないような内容が期待されている。
- ・討論会については、テーマ設定、時間管理など、運営面においてより一層の改善余地がある。
- ・研修生の職務、経験等にばらつきが見られ、討論会等において議論がかみ合わない場面があった。

講師側も研修の実施にあたって多大なる理解と協力

- ・各講師から研修の実施に多大なる理解と協力を得て、充実した講義を実施。改めてじっくりと聞きたいという評価もあった。
- ・研究者と実務者の連携による講義については、実務者の話が非常に役に立ったという意見と、研究者の体系的な話をもっと聞きたいという意見の両方があり、時間配分などは今後の調整課題である。

研修生同士の人的交流も活発化（「顔」の見える関係への第一歩）

- ・研修生は、非常に熱心に研修を受講。防災意識の高さがうかがわれた。
- ・討論会等の意見交換や参加者同士のコミュニケーションを通じ、人的交流が拡大。
- ・これらを通じ、研修生は所属団体の防災対策へのヒントが得られたことを期待。

専任研究員に支えられた高評価

- ・専任研究員の熱意あふれる対応が受講生に高評価を得ている。
- ・ただし、今回の経験を踏まえ、より効率的な研修の運営を工夫する必要がある。

3. 今後の対応

本年度の災害対策専門研修は、引き続き同内容のマネジメントコースA，Bを各1期ずつ実施する。（11月12日（火）から12月13日（金）まで）

上記評価等を踏まえ、修正が必要な点のうち、可能なものについては講師等と調整の上、修正を行い実施する。

また、これらの反省点を踏まえつつ、平成15年度の研修計画についても順次検討を行う。

（参考）コースの概要

項目	内容	
	マネジメントコース（A） （上級コース）	マネジメントコース（B） （基礎コース）
対象	政府関係機関、地方公共団体、公共機関の管理職員等、災害発生時の応急対応の指揮者となりうる者等	左に準ずる者及び左のうち経歴年数が浅い者等
目的	大規模災害発生時に各種の対応が同時進行的に展開する状況を横断的・総合的にとらえ、これに対処する能力（防災責任者に必要となる能力）を向上	災害のメカニズムや阪神・淡路大震災の経験を踏まえた各部門の災害対策のあり方など左のコースの前提となる基礎的な知識について体系的に学習